



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和4年6月1日

第3号

「本物を見た時の表情と声」 ～東大寺大仏殿 と 奈良の大仏～

校 長 服部幸司

5月18日(水)～20日(金)、3年ぶりの修学旅行(奈良・京都方面)が実施されました。当日は抜けるような青空、最初の見学場所は高さ約15メートルの大仏様が中に座る奈良の東大寺大仏殿(高さ49.1m、幅57.5m、奥行50.5m、大仏とともに国宝)です。四十数年前の私自身の修学旅行を思い出した時に、何と言っても衝撃を受けたのが、東大寺大仏殿の大きさでした。受付から参道に差し掛かり、突然、目に飛び込んできた、あの圧倒的迫力の大仏殿の大きさは、今でも記憶に残っており、今回も自分がどう感じるのか、そして、生徒達がどのような表情をし、どんな声を上げるのか、楽しみにしていました。



多くの3年生を圧倒した「東大寺大仏殿」

私は、先頭で歩き、数百メートル先の大仏殿を見上げて、静かに感動を味わいます。その後、担任と生徒を待ちます。中学3年生時の私と同じ場所に立った西中生は、その瞬間、感動が表情、言葉に出てしまいます。一瞬、体が止まり、「すげえー」、「でかつ」、「やばっ」、「えぐっ」、一人一人、発する言葉は違うけれども、「圧倒されている」ことには間違いありません。

大仏殿内部の北東にある柱の一本に開いている穴(大仏様の鼻の穴の大きさと同じ大きさ)も楽しみにしていました。無病息災を願って、その穴をくぐろうとする人たちが列をつくって並んでいるのではないかと想像していました。しかし、その「鼻の穴」はベニヤ板で塞がれていました。コロナ禍の感染対策です。ガイドさんの説明を聞いて、生徒は「柱の穴の歴史」と「見上げる大仏の実際の大きさ」を実感しているようでしたが、生徒にとって、強烈な思い出の一つになるだろう、と思っただけに悔しい気持ちになりました。



大仏殿の中に座る

「奈良の大仏」

知識は「本」や「映像」からも得られますが、体験しないと分からないことがあります。実際に大きな大仏殿を目の当たりにし、その中に座る大仏様を下から上まで嗅覚まで働かせて見上げて、「なぜ、このような大仏が造られたのだろうか」と、改めて疑問に思った生徒がいたに違いありません。あらゆる学びのスタート、興味・関心・意欲の始まりは【体験】かもしれません。

修学旅行の目的は、「平素と異なる生活環境の中であって見聞を広げる」ことが最初に挙げられています。私が同行できたのは、限られた寺社仏閣でしたが、「本物」を見た時の生徒の表情・言葉はどの表情・言葉も、校長として「修学旅行が実施できてよかった」と思わせたのです。